

自己決定しながら課題を追究し、解決できる児童の育成

— 小学校社会科において自由進度学習を取り入れ、
児童の学習状況の見取りを中心とした授業実践を通して —

義務教育研究係
長期研修員 下飯 志津子

《研究の概要》

本研究は、小学校社会科における児童が自己決定しながら、課題を追究できる児童の育成を目指したものである。

具体的な手立てとしては以下の二つである

① 児童が自ら選択や決定を行う場面の多い学習形態である自由進度学習を取り入れ、自己決定の機会を保障する単元構成を考える。

② 児童の学習状況を4つの段階に分けて見取り、それぞれの状況に応じた支援を行う。

これらの手立てを実践することで、児童が自分で自己決定をしながら課題を追究し、解決できる児童の育成に有効であることを、授業実践を通して明らかにした。

キーワード 【小学校社会科 自由進度学習 自己決定 見取り 個に応じた支援】

群馬県総合教育センター

分類記号：G 0 2 – 0 2 令和6年度 2 8 5集

本報告書に掲載されている商品又はサービスなどの名称は、各社の商標又は登録商標です。

<各社の商標又は登録商標>

Google 、Google Forms、Google ドキュメント、Google スプレッドシート、Google スライドはGoogleの商標又は登録商標です。

I 小学校社会科における問題の所在

今までの自分自身の社会科の授業を振り返ると、課題について調べ追究していく授業スタイルを取り入れてはいるが、追究の仕方やまとめ方などは教師主導で行っていた。児童と一緒に単元の課題は立てるが、学習活動は教師が指示するので、児童が単元の課題を意識しなくても学習は進み、単元の課題を意識しながら追究することが少なかった。時には教師の説明が多いため、児童の学びが受動的になり、自ら学んだという意識がもてない授業になっていた。

「群馬研教育ビジョン（第4期群馬県教育振興基本計画）」には、「自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す！」と示されており、当事者意識をもたせ、子供中心の学びを充実させていくことが「自律した学習者」の育成につながることが示された。加えて、令和6年度学校教育の指針では、「教師が『～させる』授業から、児童生徒が『～する』授業へ」と授業改善の方向が示された。そのための授業デザインとして「日常生活や社会と関連した単元・題材を構想する」「問題解決的な学習、探究的な学習を重視する」「自己決定、対話・交流、試行錯誤の場面を授業の中に取り入れる」として具体的に示唆している。

そこで、今回授業改善の柱として、授業デザインを見直し、児童の自己決定する力に注目して、「教師が『～させる』授業から、児童生徒が『～する』授業へ」の転換を目指し「自律した学習者」を育成するための手立てを考えた。

自律した学習者を育てていくためには、自分で課題を見付けることはもちろん、児童自身が自己決定して追究していく機会を設定する必要があると考える。児童が単元の課題を自分で意識し、その課題を解決するための学習方法や学習形態などを自己決定しながら調べ学習を行っていくことで、児童の自己決定する力を伸ばすことができるのではないかと考えた。児童は自己決定して学習を進めていくことで、自分の学びを調整し、学びを自分事化して行くと考える。学びを自分事化できれば、自律した学習者の育成にも有効であると考える。

また、一斉指導では一人一人を細かく見ることに限界があるが、子供が選択・決定する場面の多い学習形態を取り入れた学習を実践することで、児童一人一人を更に細かく見取る時間を確保することができる。児童の学習状況を細かく見取ることで、個別最適な支援ができるので、児童を学びの中心にして授業が展開できるとも考えた。

II 目的

「教師が『～させる』授業から、児童生徒が『～する』授業へ」と授業改善することが、自己決定をしながら課題を追究し、解決できる児童の育成にとって有効であり、自律した学習者の育成につながるものであったかを授業実践を通して明らかにする。

III 方法

自由進度学習を取り入れ、児童一人一人が 調べる内容や調べる方法、学習形態等を自己決定できるような単元構成を考える。更に、児童の学習状況を進度や理解度によって4つの段階に分けて見取り、児童一人一人の学習状況に応じた声掛け等の支援を行うことで、全員が単元の目標を達成できるようにしていく。以上のような手立てを入れて小学校社会科の授業を実践し、「教師が『～させる』授業から、児童生徒が『～する』授業へ」の授業改善を図る

IV 研究の内容

1 文言の定義

(1) 自由進度学習とは

本研究では、自由進度学習を「子供が選択・決定する場面の多い学習形態」と定義する。

(2) 自己決定とは

「自己決定」とは、学習の各過程において課題を追究するためには「何を調べるとよいか」「どのように調べるとよいか」「どのようにまとめると分かりやすいのか」、など自分自身の意思や学習経験に基づいて、自らの行動を決めることと定義する。

2 手立ての説明

(1) 児童の自己決定の場を保障する単元構成

① 単元構成の工夫

下の図1は一斉指導の単元構成と、単元内自由進度学習の単元構成との比較の一例である。今回の実践では、

単元構成の比較		-武士の世の中-
時間	教科書の単元構成	自由進度学習
1	単元の課題を立てる 全員で学習計画を立てる	単元の課題を立てる 一人一人が学習計画を立てる
2	平氏による政治の始まり	源平合戦・鎌倉幕府の始まり・元との戦いなどについて自己決定しながら調べ、課題を追究する
3	源氏が平氏に勝利する	
4	頼朝が東国をおさめる	
5	元の大軍がせめてくる	
6	まとめる	まとめる

図1 単元構成の比較

は、一単位時間毎に、全員で課題を解決するのではなく、「追究する過程」の4時間を児童に委ね、4時間の中で、学習方法や時間配分を自己決定しながら単元の課題を追究していくようにした。教師の指示がなくても児童が自分で学べるように環境の構成を工夫したり、資料や教材を準備した。環境の構成では、社会科コーナーを設置し、本や具体的な資料も調べられるようにした。また、児童が調べやすいように必要な資料を、児童の端末に配付した。

② 児童の自己決定の場を保障する

児童に学習方法・学習順序・学習形態・資料の選択・まとめ方等を委ねた。児童の自己決定の場を保障することで、児童が学びを調整し、学びを自分事化できるようにした。

本実践で、児童の行う自己決定の例は以下の通りである。表1のように児童は様々な学習方法や学習形態、まとめ方等を自己決定し、自分に合った学びを模索していく。

表1 児童が行う自己決定の例

過程	児童が行う自己決定の例
つかむ	<ul style="list-style-type: none">・単元の課題を解決するために、どのような疑問（内容）を調べるのか。（学習内容）・どの順番で疑問を調べていくか。（学習順序）・調べる内容にどのくらいの時間を使うか。（時間配分）
追究する	<ul style="list-style-type: none">・どの場所で学ぶか。（学習場所）・誰と協働するか。（個人・ペア・グループ）（学習形態）・どのような方法で学ぶか。（教科書・本・ウェブ・関係者への質問・教師等）（学習方法）・どの資料を使って読み取るのか。（資料の選択）
まとめる	<ul style="list-style-type: none">・どのような方法でまとめるか。（ノート・新聞・スライド等）（まとめ方）・誰と協働するか。（自分とは違うことを調べている・更に詳しく調べている・同じ内容でも読み取り方が違う等）（情報共有の相手）

(2) 学習状況の見取りと状況に応じた支援

① 児童の学習状況を4段階で見取る

授業中に「どこまで調べたの・どのようなことが分かったの」等、学習状況を聞き取る言葉掛けをしたり、授業後に成果物や振り返りを確認したりすることで学習状況を判断していく。図2は学習状況を見取るイメージ図である。児童の学習状況は、学習の進度と学びの理解度で見取るようにした。学習進度は、児童が作った学習計画通りに進んでいるのを見取った。学習の理解度は、成果物や振り返りを、単元の目標を達成することができるのかどうかという観点で見取るようにした。図2のAは計画通り学習を進め、理解度も高い状況、Bは計画通り進めているが、理解度が低い状況、B'は計画より遅れているが、理解度が高い状況、Cは自力で学習を進めていくことが難しい状況である。

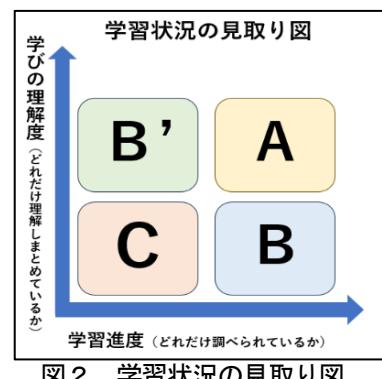


図2 学習状況の見取り図

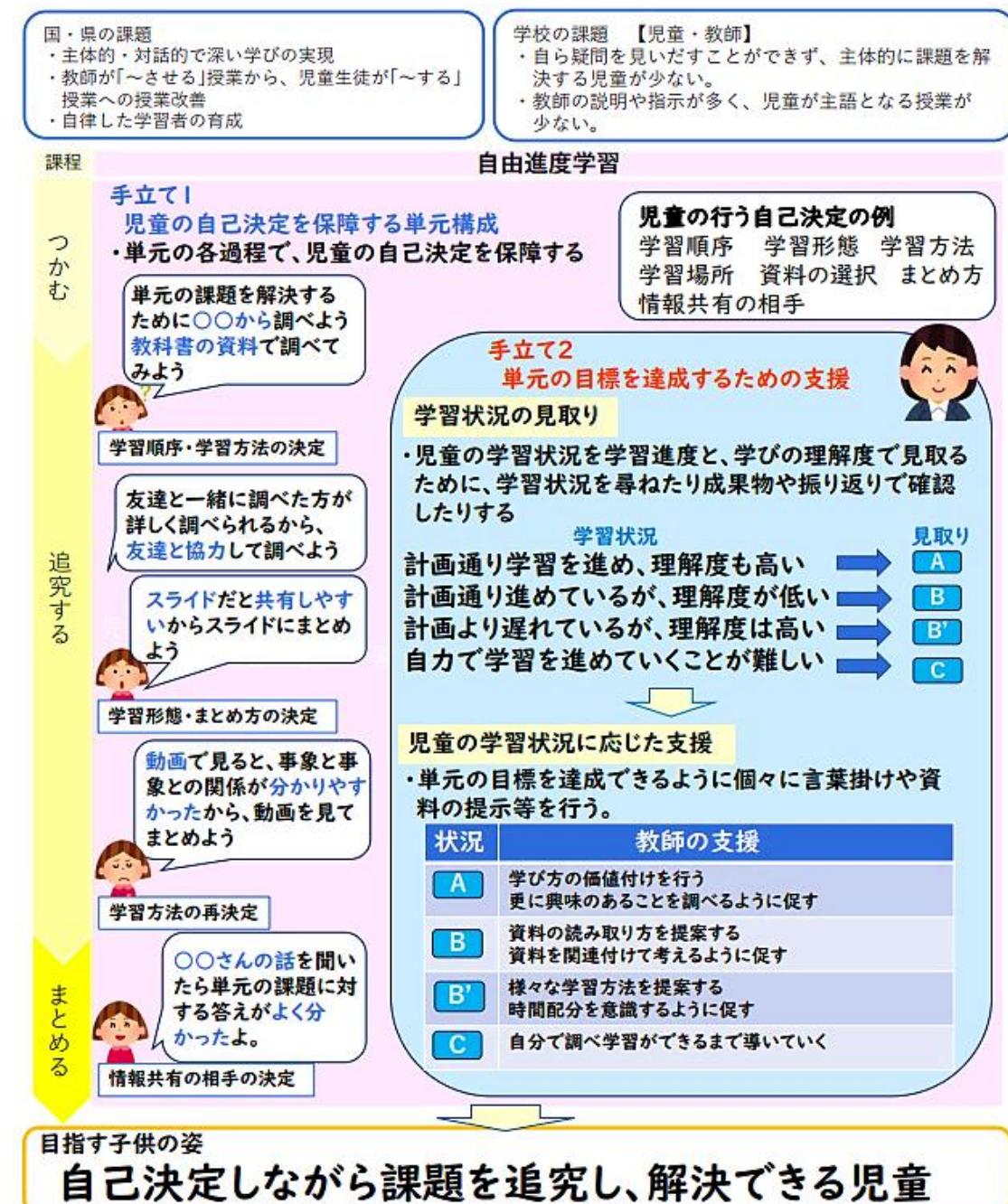
② 児童の学習状況に応じた支援

本研究で、学習状況に応じた支援は以下の通りである。

表2 学習状況に応じた支援の例

学習状況	学習状況に応じた教師の支援の例
A：計画通り学習を進め、理解度も高い ① 自分で見通しをもち、調べ学習を学習計画通りに進め、単元の課題を解決することができる。	① 自分たちで調べた方法を聞き取り、その学び方を褒めたり認めたりして学習の価値付けを行い、単元の課題を解決できたら、更に興味があることを調べるように促す。
B：計画通り進めているが、理解度が低い ① 資料から単元の課題を解決するための必要な情報を読み取ることができない。 ② 調べて分かった情報や社会的事象を比較・分類したり総合したりするなど社会的な見方・考え方を働かせて考えることができない。	① 読み取ってほしい資料を提示したり、資料（絵・グラフ・図・年表など）のどの部分に着目して読み取ればよいのかをアドバイスしたりする。 ② 調べて分かった情報を比べたり、分けたり、まとめたりつなげたりして関連させながら考えることができるよう、友達と協働させたり、考える視点を伝えたりする。
B'：計画より遅れているが、理解度が高い ① 自分に合った学習方法を理解することができていない。 ② 見通しがもてず、時間配分を考えることができない。	① 教科書の資料を読み取ったり、動画を見たり、Webページを閲覧したり 本を読んだりと自分に合った調べ方が選べるように提案する。 ② あと何時間で、どこまで進めたいのかを児童に尋ね、見通しをもって調べ学習に取り組めるようにする。
C：自力で学習を進めていくことが難しい ① どの順番で調べていけばいいのか決めることができない。 ② どの資料を見れば、何が分かるのかが分からない。 ③ どの学習方法で調べればよいかを選ぶことができず、動き出せない。	① どの疑問なら調べやすいのかを聞き、その疑問を調べられる方法を提案しながら、一緒に取り組む。 ② どの資料ならどのようなことが分かるのかを児童に伝える。 ③ 児童のやりやすい学習方法を聞き、それに合った学習方法を児童と試しながら、一人で調べ学習ができるまで導いていく。

3 研究構想図



V 実践

1 長期研修員による授業実践 I

(1) 授業の概要

対象	研究協力校 小学校第6学年 24名
実践期間	令和6年6月4日～6月21日
単元名	「縄文のむらから古墳のくにへ」 8時間（第3時～第7時が自由進度学習）

単元の目標		<p>知識及び技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりに、むらからくにへと変化することを理解することができる。 <p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世の中の様子、人物の働きや代表的な文化遺産などに着目して、狩猟・採集や農耕の生活、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を捉え、我が国の歴史の展開を考えると共に、適切に表現することができる。 <p>学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を手掛かりにむらからくにへと変化することについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決することができる。
授業の概要	第 1 ・ 2 時	<ul style="list-style-type: none"> ・歴史学習や自由進度学習のオリエンテーション ・資料を基に話し合い、単元の課題をつくり、自らの学習計画を立てる。 <p>単元の課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">どうして、指導者が現れてきたのか？</div>
	第 3 ・ 7 時	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習計画に沿って、狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子についての調べ学習を行い、分かったことをまとめる。 ・各時代の特徴をまとめるために、友達に調べて分かったことを伝え合う。
	第 8 時	<ul style="list-style-type: none"> ・狩猟・採集や農耕の生活、古墳、大和朝廷（大和政権）による統一の様子を踏まえ、これらの事象を比較したり関連付けたりしながら「なぜ、各時代に偉い人は、いたりいなかつたりしたのだろうか」等、世の中の様子が変化していったことを、友達と協働しながら考える。 ・各時代の特徴とむらからくにへと世の中が変化していったことについてまとめる。

(2) 授業実践の様子

① 自己決定している児童の様子

「つかむ過程」では、3枚の絵を見比べて気付いた疑問を基に、単元を貫く課題を児童と一緒に作った。どのようなことを調べればよいのかを児童に問い合わせると、「各時代の生活様式を調べる必要がある」「巨大な建物を調べる」等の意見が挙がり、それを基に学習計画を立てた。児童に任せた5時間分の学習計画を立てる児童もいれば、次の1時間分だけ調べる内容を決めて、調べ始める児童もいた。学習方法や学習場所と学習形態を決めてから動き始める児童もいれば、学習場所だけ決めて、取りあえず調べ始める児童も見られた。「追究する過程」では、自分から友達に声を掛けて、一緒に調べ学習に取り組み始める姿や一人で教科書を見ながら、ノートにまとめ始める等、それぞれが学習形態を自己決定しながら取り組んでいた。初めは、教科書を読んでいたが、動画を見た方が分かりやすいと学習方法を変える児童が見られた。グループで学んでいる児童たちは、誰がどの時代を調べるか等の分担や、調べて分かったことを伝える役とスライドにまとめる役など、自分たちで役割分担をしながら進めていた。単元の学習が進んでくると、授業が始まる前から、自分たち思い思いの学習場所に行き、調べ学習を進めたり、動画を見て分かったことを共有し合ったりしていた。調べたことを、自分なりの方法でどんどんまとめることができていた。授業の終わりのチャイムが鳴ると、「休み時間も調べようかな」「えっ、もう終わりなの、早いな」等の発言が聞かれた。自主的に歴史の家庭学習をしたり、調べるために歴史の本を自分から持ってきたりする児童もいた。

授業後に、自分で調べて課題を解決する学習についての感想では、「自分のペースで進められて良かった」「みんなで協力することで効率よく調べられた」「ただ聞くだけではなく、自分で調べてまとめるから

先生が教えるよりも、自分たちで言葉や学習をする
 ると、素直的に取り組んだような感じがして
 たり、しかし、学んだような感じがした。時代
 についての内容がよく分かって、道具の
 名前なども分かりました。



図3 児童の感想

「すごく頭に入りました」など、肯定的な反応（図3）が多かった。若干名、「友達と一緒にやることで、友達を頼ってしまう子がいるかもしれない」「楽しいと思っても、勉強なので頭に入らなくては意味がないと思う」と心配する意見も見られた。また、「自分たちで学習して大変でした」という意見が1名見られた。

② 学習状況を見取り、学習状況に応じた支援に対する児童の様子

児童は、何をどうやって調べればよいのか、どこから調べるか、どの資料を調べるか、どうやってまとめしていくか等を試行錯誤しながら学習を進めていた。教師は学習方法や資料を個別に紹介しながら支援を行った。3時間目には、単元の課題に対してどれぐらい調べ学習が進んでるのかを聞き取り、課題に対して追究できるように言葉掛けを行っていった。武器や当時の髪型などの自分の好きなことを調べていた児童も、どの時代からなぜ指導者が現れたのかを調べ出し単元の課題に向けて、追究を進めていった。約半数の児童が、教師が用意したミニテスト（Google Forms）を解き、満点になるまで何度も挑戦する姿が見られた。自由進度学習の5時間目が終了し、大半の児童が大和政権まで調べ終わり、単元の課題についての自分の考えを書けるようになっていた。以下は各学習状況に応じた児童の様子である。

「Aの学習状況と見取った児童の様子」

どこから調べれば単元の課題を解決できるかをじっくり考えて、見通しをもってから調べ始めていた。友達と協働して、どの部分を誰が調べてまとめるかを話し合い、教科書資料を読み取りながら、単元の課題を解決することができた。教師が、更に興味があることを調べたり、より分かりやすいように整理したりするように促す（4ページ表2 A①）と、友達がまとめたスライドを確認し、クラスで活用できるように、時代別にまとめ直していた。

「Bの学習状況と見取った児童の様子」

調べ学習を順調に進めているが、縄文時代のスライドで髪型や衣服についてのみまとめていたので狩猟・採集の生活について気付けるように、「他にも調べる必要のあることはないのかな」と言葉掛けを行い、資料を紹介（4ページ表2 B①）した。その後、スライドに魚や貝、動物や木の実を食べて生活していたことがまとめられ、縄文時代の特徴をつかむことができていた。

「B'の学習状況と見取った児童の様子」

Webページを調べていて、なかなか調べ学習が進まず、単元の課題を追究するのには関係ない歴史の細かい知識の資料を調べている児童には、単元の課題を意識させる言葉掛けをした。また、教科書の資料や動画も参考するように伝え（4ページ表2 B'①）、時間内に単元の課題を解決するように言葉掛けを行った。児童は動画を見てまとめることを決め、時間内に調べ終わることができた。

「Cの学習状況と見取った児童の様子」

教科書を読んだり、Webページを参照したりしても漢字が読めず、調べ学習が進まない児童には、動画資料を紹介（4ページ表2 C①）した。そもそも読むことが苦手な児童に対しての手立てとしては、効果的な方法であったと感じた。普段の授業では飽きてしまい、分からなくなるとすぐに教師に質問に来ていた児童には、友達との協働を勧めた。しかし、自分一人で調べてみたいと自己決定できたので、その様子を見守った。その児童も動画を見ながらノートにメモを取り、根気強く調べることができた。

2 協力校の教師による授業実践Ⅱ

（1）授業の概要

対象	研究協力校 小学校第6学年 24名
実践期間	令和6年9月3日～9月13日 6時間（第2時～第5時が自由進度学習）
単元名	「武士の世の中へ」
単元の目標	知識及び技能 ・源平の戦い、幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、武士による政治が始まったことを理解することができる。

		<ul style="list-style-type: none"> ・遺跡や文化財、地図や年表などの資料で調べ、まとめができる。 <p>思考力、判断力、表現力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・武士が台頭してきたことや源平の戦いの様子、鎌倉幕府の政治の仕組み、元との戦いについて関連付けたり総合したりして、この頃の世の中の様子を考え表現することができる。 <p>学びに向かう力、人間性等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源平の戦い、幕府の始まり、元との戦いを手掛かりに、貴族の世の中から武士の世の中へと変化することについて、予想や学習計画を立てたり、学習を振り返ったりして、学習問題を追究し、解決することができる。
授業の概要	第1時	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を基に疑問を出し合い、児童の疑問を基に単元の課題をつくり、その単元の課題を解決するために、児童が自らの学習計画を立てる。 <p>単元の課題</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> なぜ、武士が力をもつことができたのだろうか？力をもった後どうなったのだろうか？ </div>
	第2～5時	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの学習計画に沿って、源平の戦い・鎌倉幕府の始まり・元との戦いについて調べ学習を行い、分かったことをまとめる。 ・チェックシートを解く。 ・さらに調べたいことを調べ、説明する動画を作る。
	第6時	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでに学習して分かったことをもとに「なぜ、武士が力をもつことができたのだろうか？力をもった後どうなったのだろうか？」について説明する。

(2) 授業実践の様子

① 自己決定している児童の様子

「つかむ過程」では、初めに学級担任が甲冑を着て登場した。子供たちはとても驚き、「すごい！ かっこいい！」と興味をかき立てられていた（図4）。その後、平安初期と平安後期の武士の様子の絵を見比べながら、疑問を出し合い、武士の立場が変わっていることに気付いた。その気付きを基に全員で「どうして武士が力をもったのか？その後どうなったのか？」という単元を貫く課題を立てることができた。その後、学習計画を立てる場面では、教科書の単元の範囲を調べたり、配付した資料を見たりしながら学習計画を立てていた。「追究する過程」では、一回目の実践のときより、それぞれにあった学習方法を素早く選び、スマーズに調べ学習に入っていた。前回の実践以上に、調べ方が明確になり、調べ学習を進め、分からぬ言葉や事象があると他の班の子に聞きに行ったり、教員に聞きに来たりする姿が見られた。休み時間に、甲冑や模擬刀に興味を示し、単元が終わった後も教師が用意したミニテスト（Google Forms）を家庭学習で解く姿も見られた。



図4 導入の様子

② 学習状況を見取り、学習状況に応じた支援に対する児童の様子

一回目の実践では、何を調べれば単元の課題を解決するのかを考えることが難しい児童が数名見られたので、4時間分の学習計画を一人一人が立ててから調べ学習に入れるように、教科書や資料を提示して支援した。「追究する過程」では、単元の学習活動の流れが分かっているので、時間配分を考えながら自信をもって取り組むことができていた。前回以上に、分からぬことがあると、児童が進んで友達や教師に聞きに来て、自分たちで解決していくので、教師は授業中に、児童の学習状況を見取る時間（図5）を多く確保することができた。教師は毎時間の振り返り（次ページ図6）や児童の



図5 児童の学習状況を見取る

成果物、また授業中の見取りを生かして、児童の知識を補う説明や資料の紹介をすることができた。どの児童も自分のペースで学習を進め、個別最適な学びが行われていた。3時間目になると、人物や事象を調べることはできているが、人物と人物のつながりや事象と事象のつながりを捉えられていない児童が見られたので、単元を貫く課題に答えられるように、社会的な見方・考え方を働かせて、歴史の大きな流れを捉えてまとめることを個別に促した。4時間目になると、自分たちでまとめたスライドに説明動画を入れる児童がいた。スライドを説明することで、自分たちでもう一度、人物や事象、歴史の流れを整理したり、まとめ直したりすることができた。児童に配付する資料は

もう少し厳選するか、事前に、全部使わないで必要なものを選んで使うことを伝える必要があった。振り返りの記述の中で「友達の話をしっかりと聞き、自分の意見に+αできた」「自分から積極的に調べることができた」「今回は学習計画通りに進まなかった」等、自らの学びを客観視する記述が見られた。以下は各学習状況に応じた支援の例である。

「Aの学習状況と見取った児童の様子」

前回以上に、自分で考えて学習を進めていた。教師は学習状況を見守り、貴族の世の中から武士の世の中へ変化したことをしっかりと捉えて学び進められていることを認め、学び方の価値付け（4ページ表2 A①）を行った。児童は自分の学習方法に自信をもち更に、調べ進めることができていた。

「Bの学習状況と見取った児童の様子」

平清盛・源頼朝等の人物の調べ学習は進んでいるが、人物同士の関わりや、源平合戦や鎌倉幕府の成立などの社会的事象との関わりについて理解できていなかったので、社会的な見方・考え方を働かせて、関連付けて考えるように言葉掛け（4ページ表2 B②）を行ったり、資料のどの部分を読み取って考えればよいのかを伝えたりした。児童は、社会的事象と関連付けて考えたことで、人物をまとめたスライドに社会的事象との関わりを捉えたより詳しく説明が付け加えられる等の改善が見られた。

「B’の学習状況と見取った児童の様子」

丁寧にまとめているが、時間内に元寇まで調べ終わることができなそうだったので、見通しをもてるよう元寇を調べた友達に話を聞くように言葉掛け（4ページ表2 B’②）を行った。友達のスライドを見て、調べていない知識を補い、自分で時間内にまとめることができた。また、単元テスト前に、自分で教師が用意したミニテスト（Google Forms）を解く等の家庭学習を行い更に知識を補っていた。

「Cの学習状況と見取った児童の様子」

学習計画を立てた後、どの学習方法にするか迷っていて動き出せない児童には、教師が前回の学習方法を想起させたり提案（4ページ表2 C①）したりして、学習方法を自己決定できるように寄り添った。学習方法が決まると、スムーズに調べ学習を進めることができ、自分で単元の課題を解決することができた。

VI 考察と成果と課題

1 考察

(1) 手立て1 児童の自己決定の場を保障する単元構成について

上記の実践を通して、児童が自分で動き出す姿が多く見られた。また、児童の感想では「先生に教わるのは簡単だけど、自分で学習をして、あついたらうれしいし、まちがっていれば少しくやしいから、自分で調べるとより頭にはいってきてよかったです。」と学びを自分事化する記述が見られた。これは、学習方法や学習形態などを自己決定する機会を多く保障したことで、自分の学習方法に自信をもって取り組めたからではないかと考える。更に、自由進度学習では自分が知りたい・解決したいという思いが生まれた時に、自

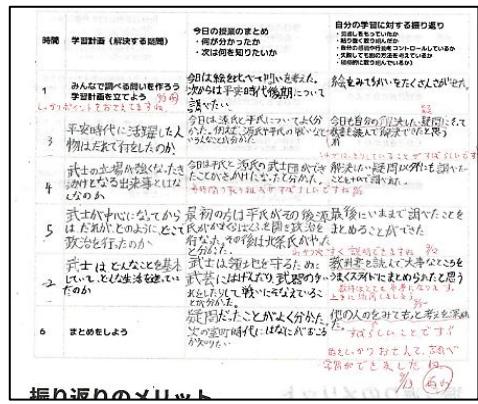


図6 児童の振り返り

由に友達に聞きに行ったり、進度を確かめたりすることが可能になるので、必要に応じて協働が生まれ、そこに対話が成立し、社会的事象に対する概念形成や理解を深める姿が多く見られた。

(2) 手立て2 学習状況の見取りと学習状況に応じた支援について

自由進度学習を取り入れたことにより、教師が一人一人と関わる時間が増え、一人一人の学習状況をより細かく把握することができた。また、授業中に学習状況を聞き取る声かけをし、授業後には成果物や振り返りで学習状況を判断して、個々の学習状況に応じた支援をすることで、全員が単元の目標を達成することができた。一斉指導の時にはどうしても全ての児童に合わせて授業を展開することが難しいと感じていたが、今回、自由進度学習を実践し見取ることに注力したこととで、児童中心の授業が展開できたと感じた。

2 成果

- 自己決定の場を保障したことで学習を自分事化して捉え、資料の読み取り方やまとめ方を工夫しながら、粘り強く課題を追究することができた。
- 児童に学びを委ねたことにより、必要感から友達と対話や協働をし、その対話を通して社会的事象に対する概念形成を行ったり、理解を深めたりすることができた。
- どの児童も自分の力で単元の課題を解決することができたことで、自分の学習方法に自信をもち、次の学習への意欲につながった。

3 課題

- 自由進度学習に慣れないうちは、学習順序を考えて、学習計画を立てるということが難しかった。この学習を繰り返しながら、学習計画を立てる習慣を身に付けられるようにすると、更に見通しをもって学習を取り組めると感じた。

VII 提言

今回「教師が『～させる』授業から、児童生徒が『～する』授業へ」と授業改善したことで、児童の学びを受動的なものから能動的なものへと変化させることができた。児童に学びを委ね、教師が学習状況に応じた支援をすることにより、自己決定しながら課題を追究し、解決できる児童の育成につながった。子供に学びを委ねることで、教師の予想を超えた生き生きと学ぶ姿が多く見ることができた。是非、自由進度学習を取り入れた授業づくりの推進を願う。

〈参考文献〉

- 奈須 正裕 (2021). 個別最適な学びと協働的な学び. 東洋館出版社.
- 奈須 正裕 (2022). 個別最適な学びの足場を組む. 教育開発研究所.
- 難波 駿 (2024). 学び方を学ぶ授業. 東洋館出版社.
- 中村 達矢 (2022). 主体的に学び続ける生徒を育てる学習指導—単元内自由進度学習における支援の工夫を通して. 福岡市教育センター『令和4年度研究報告書』, (第1118号, G2-03).
- 矢澤 拓真, 武井 正樹, 篠崎 正典 (2022). 生徒の「歴史的な見方・考え方」を用いた問題解決能力の育成を目指す授業の構想—単元内自由進度学習を手がかりとして. 信州大学教育学部付属次世代型学び研究開発センター紀要『教育実践研究』, (21).
- 矢澤 拓真, 村上 茉椰, 篠崎 正典 (2023). 生徒の「歴史的な見方・考え方」を用いた問題解決能力の育成を目指す授業の構想(2) —単元内自由進度学習における「個人追究」の役割に着目して. 信州大学教育学部付属次世代型学び研究開発センター紀要『教育実践研究』, (22).

〈担当指導主事〉 西原 和久